

『平成 28 年度 第 1 回エヌ・シィ・ティ放送番組審議会』議事録

日時：平成 28 年 9 月 28 日（水）10:30～13:00

場所：株式会社エヌ・シィ・ティ本社 3F 大会議室

1、開会の挨拶

株式会社エヌ・シィ・ティ 代表取締役社長 澤田 正彦

- ・今年 8 月末現在の NCT の加入状況は、ホームパス 120,287 件に対し接続世帯数は 43,021 件、接続率は 35.8%となっている。そのうち、長岡エリアが 37,587 件で 39.0%、三条エリアが 5,434 件で 22.8%となっており、三条エリアは昨年度末に 2 割を超え、増加傾向にある。NCT の総接続世帯数も昨年度 4 万件を超えた。
- ・F T T H 化（光化）については、旧長岡エリア、旧三条エリア、三条市周辺を計画しており、今年度、来年度の 2 年間で F T T H 化に着手していく。三条エリアは栄まで拡大し、三条から見附、長岡まで「光」化が進むということで、加入の促進を一層図っていききたい。
- ・今日は今年度の番組における三つの取り組みについて特に審議していただきたい。
- ・一つ目は、今年の上期に生中継を積極的に進め、昨年から始めた長岡花火の全国同時生中継を拡大したことや、日本の世帯の 1 / 3 ほどが加入している J : C O M と一緒に、東京スカイツリーとアオーレ長岡をつないで、2 元同時生中継を行い、シティプロモーションを行ったことなどについてご意見をいただきたい。
- ・二つ目は、初の取り組みとして、悠久山球場で行われた高校野球の夏の大会 2 回戦の模様を生中継したことなどについてご意見をいただきたい。
- ・三つ目は、特別番組（登山しながらマルチコプターを使って撮影をした「守門岳あいぼ」や、「地方の時代映像祭」に今年も入賞が決まった「錦鯉発祥の地 越後長岡」など）についてご意見をいただきたい。

2、番組審議委員長の挨拶

エヌ・シィ・ティ放送番組審議会委員長 長尾 弘 様

- ・ケーブルテレビが非常に健闘している中、留まることなくどんどんと拡大していく必要があると思っている。加入が増えることはケーブルテレビの発展につながり、ケーブルテレビの発展が町の活性化につながっていく。
- ・このように数字を見せてもらうなどして、エヌ・シィ・ティが今頑張っていることを知らせてもらえることは市民としてもありがたい。
- ・番組審議会は放送番組の適正化を図るために皆様からご意見をいただくことが目的。番組の適正化のために私たちに何ができるのか、適正化が図られることによって、番組

が市民に受け入れられるものになっていき、受け入れられることが町の活性化につながっていく。そんな発展の仕方をぜひこれからもケーブルテレビに期待したい。

- ・今日、皆様から適切なお意見をいただける審議会になればと思っている。

3、出席状況確認、番組審議会開催概要について

事務局 東條 真一

※別添資料参照

4、報告事項

エヌ・シィ・ティ地域情報部次長 清水 幸太郎

◎上半期の放送番組について

○「錦鯉発祥の地 越後長岡」～受け継ぐ若き鯉師たち～

- ・「地方の時代映像祭 2016」の入賞が決まった。長岡市のご協力をいただき、山古志地域の鯉師をご紹介いただいて作った。弊社の横山ディレクターが一年以上かけて、早朝から、場合によっては徹夜取材をして、錦鯉の魅力や愛されている姿をまとめた。11月12日（土）に関西大学で贈賞式が行われ、そこでグランプリや優秀賞などの賞が決まる。弊社は2014年に「ほだれ祭り」を取り上げた番組が、ケーブルテレビ業界のトップに入る優秀賞を受賞している。賞をとることがすごいのではなく、エヌ・シィ・ティを何らかの形で活かしていくと町づくりに役立ったり、張り合いや生きがいにつながったりすることが大切である。今回の受賞は、組織力や表現力に厚みがつき、地域からの信頼を獲得できたことの表れであり、私たちにとってうれしいニュースだった。今後も注目していただきたい。

○長岡まつり大花火大会 2016 全国同時生中継

- ・昨年度から長岡まつり大花火大会については、ケーブルテレビ業界の半数を占めるJ:COM等を通して全国同時生中継に取り組んだ。今年は東京、特に東急沿線をエリアに持つイツコムや品川、横浜のケーブルテレビ、地域では米沢、佐渡のケーブルテレビ局から生中継の賛同をいただき、189局、約1,660万世帯と昨年よりも拡大して放送した。その結果、昨年度以上の反響があった。
- ・番組後のプレゼントの応募数も昨年306に対して788という応募をいただいた。いただいた感想も非常に好感触の熱い思いを寄せたメッセージが昨年以上に多かった。北は北海道から西は福岡まで幅広く応募をいただけた。昨年度はハガキよりもネットでの応募の方が多かったが、今回はハガキの方が多かった。県外からの応募が506と県内を上回った。県内のエリア外からも120の応募があった。県外は神奈川県からの応募が115で

一番多く、イツコムエリアで放送できた影響だと思う。首都圏を中心にたくさんいただいた。地方では、富山が3年目の中継ということもあり、楽しみにしていただいております、5倍以上の応募があった。

- ・プレゼントは米菓、酒に加えて今年初めてお米を入れた。
- ・寄せられた感想の中に、「他局の放送と比較して花火の美しさを見られてよかった。」「地元や近所の花火大会と比較して、長岡の花火は番組の作りも含めて良かった。」「生きていて良かった。」などがあった。「タレントや騒がしいだけの司会進行やCMなどを排除して、花火をしっかり見せている」と感想にあるように、昨年引き続き評価をいただいていることで自信をつけた。
- ・花火の打ち上がる位置、曲の尺出しをしてカメラワークのタイミングをつけていくなどの工夫に取り組んでいる。さらに視聴者のご期待に応えられるようにしていきたい。

○週刊シティプロモーション ご当地サタデー

- ・新たな取り組みとして、J:COMの生放送番組と共同制作し、二元同時生中継で全国発信した。東京スカイツリー内にあるJ:COMワンダースタジオで公開生放送し、有森裕子さんと森前市長からもご出演いただいた。J:COMのスタジオとアオーレ長岡をつなぎ、パブリックビューイングを行って、八木亜希子アナと弊社山本アナが掛け合いをしたり、地元の小学校の子どもたちの生歌、長岡市各地域の市民の声を届けたりするなど、大変好評をいただいた。J:COMの放送エリア外の自治体を紹介したのは今回が初めてだった。通常は1時間の放送だが、1時間半の生放送をした。後半は内閣府の地方創生担当参事官にもご出演いただいた。

○怒涛の地域まつり生中継

- ・昨年以上に多くの地域のまつり生中継に積極的に取り組んだ。これまでは収録したり作りこんだりして見ていただくという方針だったが、より楽しんでいただくために生中継という表現スタイルにした。

○まつりだけじゃない！新しく取り組んだ生中継

①「一心泣き相撲」

- ・赤ちゃんのかわいらしい姿を生中継で放送し記録にしておらおうと取り組んだ。

②「今町・中之島大凧合戦」

- ・限られたカメラと制作スタッフでどういう形で表現できるかを模索した。

③「高等学校野球選手権新潟大会2回戦」

- ・新潟県4局で協力して放送し、地域の高校生の姿を紹介できた。

○主な特別番組

- ・作りこみや市民参加型の番組にも積極的に取り組んだ。
- ① 長岡商業高校ご当地CMプレゼン「長岡の魅力再発見スペシャル 2016」
 - ・長岡商業高校の生徒たちの卒業記念制作 2 時間番組。スタジオの中で司会も生徒が務めたのがケーブルテレビならではの取り組みだった。
- ② 映画「ともに担げば」 & 三条フィルムプロジェクト～ともに担いだひと夏の結晶～
 - ・映画の本編とセットで弊社が制作したメイキングドキュメンタリーを放送し、三条市民の方々から好評をいただいた。
- ③ 山本中学校花いっぱいプロジェクト～地球を一つに未来に繋ぐ花活動～
 - ・弊社伊藤が1年半かけて子どもたちの取り組みに密着し、感動や頑張っている姿のエッセンスを見出してドキュメンタリーにまとめた。
- ④ 「守門岳あいぼ」
 - ・1回目、2回目と風景の違いを見比べながらお楽しみいただきたい番組。非常に大変なロケだったが、その分、参加者の方々との絆を改めて感じた。3回目も予定。

○今年度の新編成・新番組について

- ①ライブカメラ（道路情報）
 - ・お出かけ前に役立つ情報として放送している。
- ②きつず通信 横帯編成
 - ・子どもたちが見られる時間帯に編成した。
- ③他ケーブル局のおすすめ番組 横帯編成（秋田、魚沼、上越、長崎、横浜）
 - ・全国のケーブルテレビの番組交流がここ数年盛んに行われるようになっており、各地域の魅力を発信するうまみも感じる中で、しっかりと取り組みをしている5局の厳選した番組を放送している。それぞれの地域の比較をしながら、民放や大きい局ができないことを編成に活かしている。
- ④うぶごえ（新生児紹介）の独立
 - ・今まで「ほっと11」のワンコーナーであったものを独立させている。ほっと11の中ではニュース番組という性格上、時間がランダムになってしまっていたところを、時間を決めて放送し、記録ができるようにした。

○「ほっと11」内新コーナー

- ①こそだてほっと
 - ・長岡市の子育て施策に沿ってシリーズで放送している。子育てコンシェルジュさんのアドバイスをいただいて、暮らしに役立つ情報の発信を心掛けている。
- ②「高校訪問」中越高校・帝京高校・長岡高校
 - ・高校の部活動を中心とした活動や取り組みを紹介している。

③屋上ライブ（フェリス片野大輔氏）

- ・弊社の屋上からライブ中継。

○「新番組」

①路地裏さんぽ

- ・作りこみとは真逆の取り組みとして、ご当地ネタを取り上げている。

②空撮マルチコプター

- ・マルチコプター（ドローン）を駆使して、意外な視点からの映像を放送。

○長岡市長選挙・長岡市議会議員補欠選挙 開票速報 生中継

- ・10月16日にトリプル選挙が行われるが、弊社でもしっかりと取り組んでいきたい。長岡市長選と市議補選の開票速報生中継を午後8時から放送し、当選が決まるまで伝える。
- ・スタジオ、開票所、各陣営の5カ所をつないで5元生中継を行う。
- ・市議補選は結果を伝える。
- ・県知事選挙は、県選挙管理委員会と連動しながら、データ放送で結果を伝える。
- ・選挙期間中（10/10～14）は『候補者に聞く』（ほっと11内）として候補者に、事前インタビューし、5項目について5日間放送予定。
- ・「長岡市長選挙における公開討論会」（長岡青年会議所主催）を、ノーカットで放送する。中立公正を意識しながら展開していきたい。（初取組）
- ・投開票日当日は朝からデータ放送強制表示を実施し、投票を促す。

5、審議

◎番組に関する意見交換

（1）一連の夏祭り生中継について

- ・それぞれの地域にこんな祭りがあるんだな、こんな風に取り組んでいるんだなというのを見られて良かった。
- ・商工会議所は長岡まつりの前夜祭を担当しており、私も出演させていただいた。わずかな出演ではあったが、「見てるよ」という連絡があり、反響の大きさを感じた。
- ・生放送が増えたことで大変なご苦勞があったと思うが、今そこでやっているものを同じ時間に見られるという意味では、絶対生放送の方が良い。編集してダイジェスト的に見るというのも良いが、生中継の方が伝わる。
- ・私たちは長岡の花火は有名だと思っているが、関西や西日本ではあまり知られておらず、知名度が低い。そんな現状の中で、関西の人たちに見てもらえたというのは大きいし、さらに裾野を広げて行ってほしい。

- ・地域のまつりを映すことで、テレビに出たことを他の人から声掛けされて誇らしく思っている人もいるはずなので、ぜひ生中継は続けてほしい。肖像権の問題もあるとは思いますが、夏だけに限らず、より顔が見えるものを取り上げてほしい。
- ・生中継の視聴率は通常の番組の何倍もある。今年あえてまつりの生中継に挑戦した理由を詳しく聞きたいと思った。米百俵まつりもぜひ生放送でやってほしい。生中継だと撮影する場所も難しいのだろうと思った。
- ・今年の長岡花火は、エヌ・シー・ティの放送に加え、地上波ではBSNの「水曜見ナイト」（生放送）の視聴率が約20%と高く、BS日テレでも異例の4%という視聴率が出た。インターネットもLIVE中継を行い、この四つの系統でとても良い発信ができた。
- ・三条市も初めて花火を取り上げてもらい、感謝申し上げたい。
- ・花火会場に行けない人にとって、音だけが響いていて見えないと、三条市もよく言われていた。プレゼントの応募がネットよりハガキが上回ったのは高齢化も関係していると思う。高齢者の実態調査結果で、高齢者の一番の楽しみは「夜テレビを見ること」であった。なかなか夏の風物詩である花火を見に行けない高齢者が多い中で、エヌ・シー・ティが生中継してくれたことがうれしいという声があった。生中継によって、花火の音と目で見る場所を一致させてくれたこと大変感謝している。
- ・地域に根差した中継をするだけでなく、「新潟県の長岡大花火」という全国へのセールスにも一役買っていて、外と内の両方に発信してくれていることがありがたい。継続をお願いしたい。
- ・今年は三条市と長岡市で生中継できたが、もし花火の日程が重なった時に（三条市は第一日曜が花火になっている）どう対応してもらえるのか。生中継のありがたみを味わったからこそその課題である。
- ・今回の放送は4Kではなかったのですが、次回のチャレンジに期待したい。
- ・全国に発信する番組なので、ターゲットを考えた番組作りをしてほしい。この番組を見ているのが地方の人であれば、日常の生活をしながら何となく見ているので良いと思うが、全国の人はそういう見方をしていない。きちんと見る番組としては退屈すぎたのではないかと。テレビで見る花火のインパクトと本物の花火のインパクトはかなり違うので、工夫してほしい。
- ・カメラがもう一台あると良かった。打ち上げの向かい側もしくは、観衆の中にカメラを置いて、芝生に座っている人が見ている雰囲気味わえるショットがほしい。
- ・もう1台のカメラを現場近くに設置できれば、音も時差がなく放送できる。近くのマイクで音をとって、映像と音のズレをなくすべきだ。
- ・祭りの生中継は、地域サービスという役割を持ったNCTとして良い取り組みである。

（2）新しく取り組んだ生中継について

- ・高校の紹介で直接生徒が出て説明することはありそうでなかった番組で良かった。片野

さんの屋上ライブは、こういう場所があったのかと感じ、意外な景色も見られてとてもおもしろかった。

- ・高校野球の中継は、プロ野球はあまり見ないという人でも高校野球だけはすごく興味あるという人は潜在的に多い。かつてU Xが開局当初に1回戦から放送していた時代もあった。準決勝や決勝しかテレビで見られない状況に対して残念がっている高校野球ファンにとってとても良い取り組みだった。様々な事情があったと思うが、今後は1回戦から放送してほしい。苦勞をかけても良いくらい、高校野球ファンは多い。
- ・ご当地サタデーは本当にすばらしい番組だった。もちろん長岡の魅力のPRにもなったが、森前市長のキャラクターも引き立ち、人となりがよくわかる番組だった。長岡の人にとっては、長岡を別の角度から知ることにつながったと思うので、また機会があったらぜひお願いしたい。
- ・ご当地サタデーは長岡市にとって良い機会になった。J:COMが4000人もの社員を抱えるマンモス会社だとは思っていなかった。今回改めてJ:COMと一緒に仕事をさせていただいて、制作力のすばらしさ、センスの良さがすごいなあと思った。結果的に良い番組にさせていただいて、様々なご意見があったが、おもしろい映像だったと思う。エヌ・シィ・ティには感謝申し上げたい。J:COMの社長さんにも長岡の花火大会を見に来ていただいて、非常に喜んでもらった。本当に良いご縁をいただいたと思っている。
- ・高校野球の生中継は非常に良い取り組みで、できれば他社がやらない限りはすべてエヌ・シィ・ティに頑張ってもらっていて、長岡の全チームを流していただきたい。今は1カメラで撮影していると思うが、せめて長岡のチームが出る時は、2カメラ、3カメラでやっていただくと市民は喜ぶと思う。
- ・ぜひ三条市もご当地サタデーで取り上げていただきたい。
- ・ご当地サタデーは、それぞれの地方から有名な人が来て話しながら、時々VTRをはさむという番組のコンセプトだったが、そのコンセプトやホストとゲストの役割について気になった。地方の人が都会へ行って自分のことを話すのは、都会の方が上に立っているように感じた。東京のスタジオではなく、地方に仮設スタジオを作って放送するべきだ。

(3) 特別番組について

- ・花いっぱいプロジェクトで、子どもたちが地域の人と一緒にやっているのがとても良い。
- ・ケーブルテレビで取り上げてもらったことを通じて、地域の人が愛着を創り上げたり、確認し合ったりすることが大切。
- ・長岡商業高校のCMプレゼンは以前からやっていて、他局でも取り上げられていたが、テレビ向きの内容なので取り上げてもらいたいと思っていた。
- ・山本中学校の花いっぱいプロジェクトもニュースで見たことがあったが、学校や子どもたちが頑張っている取組みを拾っていただくと、これからの若者が活躍する社会につながる

がる。こういう番組が増えていく傾向はとても良いことだと思うので、テーマは様々あると思うが、続けていただきたい。

- ・長岡市が一緒に取り組んだ錦鯉の番組が賞をとれたのは本当にうれしい限りだ。今後も、錦鯉に限らず、地域の方々と一緒に番組を制作させていただいて、それが賞をとれるようになれば光栄だと思っている。
- ・守門岳あいぼの撮影は本当に大変だったと思うが、よく決断された。それだけに非常に良い風景が見られたので、今後も続けていただきたい。
- ・三条市は、映画「ともに担げば」で取材させていただいて、映画とドキュメンタリーで2回違う風景を見られた。ここに参加していた市民はもちろん、参加していない市民も映画とドキュメンタリーを通じて三条について再認識し、愛着がさらにわいた番組だった。構成から何から、エヌ・シィ・ティさんの制作力にとっても感心し、感謝している。このような番組を制作できる着眼点は私たちが持ち得ないものなので、どうやってそのような目を持つのか、三条市のPRのためにもお聞きしたいと思った。とても良い特別番組だと思うので、様々なテーマでやっていただけたらありがたい。見ている方も三条市民に限らず、地域を好きになれる愛情のこもった番組で良かったと思う。エヌ・シィ・ティだからこそできたことだと思う。

(4) 4月からの新編成・新番組について

- ・他ケーブル局の番組について、私は委員という役割をいただいたので見たが、一般の視聴者が他の地域のことにどのくらい関心があるのか疑問に感じた。上越や魚沼みたいに近いところだと行ってみようかなという気持ちになるとは思うが、遠方だった場合どう感じているのかなと思った。
- ・ライブカメラは、道路の状況や川の水かさを見るのに役に立っている。
- ・うぶごえは、実際自分の子どもが生まれた時に録画した記憶があるので、独立させて良かったと思う。
- ・マルコプターと路地裏さんぼについて、人は行ったことのない場所の景色を見たいというのもあると思うが、逆に行ったことのある場所が違う視点で見た場合どうなのか、違う角度から見られると関心が高まると思うので、こういった新しい取り組みをされたことは評価したい。今後もチャレンジを続けてほしい。
- ・他ケーブル局の番組を見ると、やっぱり作り方や景色が違うので、目先を変えて積極的に取り入れていってほしい。
- ・去年の冬、交通渋滞が多かったため、対策を国や県と練っているところだが、交通災害を防ぐためにもライブカメラは重要なので積極的に続けてほしい。
- ・ライブカメラを三条市にまで広げていただけたということを知ったのでありがたい。
- ・路地裏さんぼのような番組があると、自分の知らなかった情報を得られるだけでなく、カメラを通じて自分の地域について違う視点で見られるのでありがたい。他局でも同じ

ような番組はあるが、エヌ・シィ・ティの目線は地元に着実に密着しつつ地元が知らない情報があり、地域貢献やシティセールスにつながるので、路地裏さんぽのエリアを広げながら、ぜひ続けてほしい。長岡と三条は生活圏が一緒なので、同じ生活圏内の知らないところを見られるのは足をのばす良いきっかけとなっている。また、他の地域と自分の地域の違いを比較する意味でもおもしろいと思い、楽しみにしている。

(5) その他、コミュニティチャンネル全般に対するご意見など

- ・生中継のご苦勞をうかがい、今年亡くなった大橋巨泉さんの「テレビは生でなければだめなんだ」という言葉を思い出した。やはりライブ感は大切だと思う。
- ・コミュニティチャンネルは、テレビに出る人とテレビで見る人の距離が近く、知っている人であることが多い。昨日「あなたはケーブルテレビに出ていた人だから初対面だと思えない」と言われた。それぐらい地元の人が見ているということを強く打ち出していくことが、民放にはない強みだと思う。
- ・市にとってエヌ・シィ・ティのコミュニティチャンネルはまちづくりをしていく本当のパートナーだと思っている。政策をやる際にも、その取り組みや市民の感覚、感想と一緒に発信していくことが、市政を市民にわかってもらえる大事な過程だと考え、エヌ・シィ・ティに信頼を抱いている。
- ・議会中継や委員会中継も定番となり、議員の皆さんも市もより意識して自分の発言や見られ方を意識しているので、より一層力を入れてもらいたい。これから選挙の生中継があるので、盛り上げて行っていただきたい。
- ・生中継のライブ感は本当にありがたい。特別番組のようにきれいに編集していただくことで、より一層良く伝えていただくという手法も組み合わせ、コミュニティチャンネルとして地域に根差しかつ地域を外に発信するエヌ・シィ・ティの前に進んでいく取り組みはとても良いと思う。行政にとって報道機関はパートナーであり、私たちが伝えたい情報をうまく伝えてくれるありがたい存在なので、引き続きお願いしたい。

以上